

2023年3月28日

報道関係各位

牧野富太郎博士にゆかりの2施設に寄附

～ 生物多様性の保全を支援。植物への情熱を次世代に伝える ～

株式会社ツムラ（以下「当社」）は、高知県立牧野植物園の主宰するボランティア活動を支援するため、オリジナルユニフォーム 350 着（218 万円相当）を本日寄贈しましたのでお知らせいたします。

またこれに先立ち当社は、2022 年 10 月、練馬区立牧野記念庭園に牧野富太郎博士の書斎を再現する「牧野記念庭園書斎再現プロジェクト」に対し、「練馬区みどりの葉っぱい基金寄付金」を通じて 100 万円を寄附しました。

1. 寄附の背景

両園は、植物分類学の父と言われる牧野富太郎博士にゆかりの施設です。当社は牧野博士が主宰する「植物研究雑誌」の発行を 1926 年より全面的に支援するなど、牧野博士の活動を応援し、その想いを継承してきました。支援の背景には、植物学を広めたい牧野博士と、和漢薬で人々の健康に寄与したい津村重舎（当社創業者）の、双方の想いが重なったことがあります。現在、「植物研究雑誌」は当社の研究所が引き継いで発行し（98 巻 2023 年 3 月時点）、投稿は会員に限らず世界の誰でも可能であり、植物分類学や生薬学の分野を代表する国際的な学術雑誌の一つとして高く評価されています。

2. 寄附の用途

1) 高知県立牧野植物園

当社が高知県立牧野植物園に寄贈したユニフォーム 350 着は、同園が高知県内の野生植物の調査や収集などを通じて地域保全に取り組む「高知県全域における生物多様性保全に関するボランティア活動」にて活用されます。

自然と健康を科学する

お問い合わせ先

株式会社ツムラ コーポレート・コミュニケーション室 広報グループ 担当：野村、高橋、山田（秀）
〒107-8521 東京都港区赤坂 2-17-11 TEL.03-6361-7100 shuzai@mail.tsumura.co.jp

野生植物の調査や収集を行うために森林に入る際、参加者は草木や虫などによる怪我を防ぐために体を覆う衣類が必要となります。また、活動中のボランティアを他の入山者と明確に識別するため、統一したユニフォームの着用が望まれていました。

今回制作したユニフォームは、モンベル社の協力のもと、着用者の安全性、快適性、視認性などに優れた仕様となっています。

2) 練馬区立牧野記念庭園

練馬区牧野記念庭園は、牧野博士が1926年から1957年に逝去するまでの約30年間を過ごした居宅と庭の跡地です。園内には牧野博士が発見し、妻の名をとって命名したスエゴザサをはじめとした300種類以上の植物が生育しており、博士が採集した植物標本や、著書、顕微鏡なども展示されています。

「書斎再現プロジェクト」では、牧野博士が研究に没頭した書斎の様子を再現し、博士の研究への情熱を伝えることを目的に練馬区が寄附を募り、当社を含めた172件、総額5,279,162円の寄附が集まりました。再現後の書斎は、2023年4月3日に公開予定です。

3. 参考情報

植物学者 牧野富太郎博士 (1862-1957)

高知県高岡郡佐川町（現在）生まれ。高知の豊かな自然に育まれ、独学で植物の知識を身につけ、東京大学理学部植物学教室で植物分類学の研究に打ち込まれました。1889年、27歳の時、自ら創刊に携わった「植物学雑誌」に、新種ヤマトグサを発表し、日本人として国内で初めて新種に学名をつけました。

1916年「植物研究雑誌」を創刊。同誌は現在も当社から発刊され、植物分類学と生薬学及びこれらと関連する各種分野の研究の発展に大きく貢献し、この分野の日本の代表的なジャーナルの一つとして高く評価されています。

1940年、78歳で研究の集大成として、「牧野日本植物図鑑」を刊行。全国からの要望に応じて各地を巡り、植物を知ることの大切さを一般に広く伝え、植物知識の普及にも尽力しました。

1953年東京都名誉都民。1957年文化勲章受章。

94年の生涯において収集した標本は約40万枚といわれ、蔵書は約4万5千冊を数えます。新種や新品種など約1500種類以上の植物を命名し、日本植物分類学の基礎を築いた一人として知られています。

また、牧野富太郎博士は、本年4月よりNHKで放送予定の連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルとなっていることでも知られています。